

We
Deliver
The Best
IIZUKA HOSPITAL

ih 飯塚病院

innovate and evolve



We Deliver The Best

**まごころ医療、
まごころサービス
それが私達の目標です**

ごあいさつ

龍王の峰をはるかに仰ぎ、
久遠の流れを湛える遠賀川に育まれた緑豊かな飯塚市は、
福岡市と北九州市を結ぶ扇の要に位置しています。
大正7年の開設以来、約100年の歴史を持つ当院は、
麻生太吉翁の「郡民のために良医を招き、
治療投薬の万全を図らんとする」開設の精神を今日も受け継ぎ、
「まごころ医療、まごころサービス」を目指しています。
最良の医療をお届けすることで、お年寄りが安心して暮らし、
若い方々が元気に働き、子供達が健やかに育つことのできる
地域づくりのお役に立てるよう、努力を続けてまいります。

飯塚病院 院長
本村健太

- 4 理念・ビジョン
- 7 医療安全／改善活動
- 9 チーム医療
- 11 教育体制
- 12 医療のグローバル化
- 13 地域医療
- 15 地域連携
- 16 救急医療
- 17 がん診療
- 18 周産期医療
- 19 診療科紹介
- 21 診療体制
- 23 看護部門
- 24 総合医療技術部門／
経営管理部門

飯塚病院ならではのチーム医療で
全員で、全力で、取り組んでまいります。



目に見えない医療の「質」を、
まごころで改善する。

667 件

これまでのTQM活動を通して行われた改善活動のテーマ数です。このほかにも大小さまざまな改善活動に取り組み、医療の「質」の向上に取り組んでいます。

継続的な医療の質の向上をめざして。
飯塚病院では、「改善活動」に先進的に取り組んでいます。

飯塚病院では「日本一のまごころ病院」を実現するために、改善活動を推進しています。医療の質の向上やTQMをはじめとする改善活動の推進エンジンとして改善推進本部を設置。Patient Firstの視点で、TQMやLean Managementなどの改善活動や医療安全推進に積極的に取り組み、ISOの視点に則り品質マネジメントを行っています。



全国的に注目を集める TQM活動

飯塚病院では1992年より医療やサービスの質の向上を継続的に高めるためのTQMを導入しています。毎年活動の成果を報告する発表大会を開催し、現在では当院の改善活動の代名詞とも言えるものとなっています。例年全国より500名を超える出席者が集う本大会は、医療分野の改善活動としては全国的に注目される取り組みにまで成長しています。



事故ゼロをめざして取り組む 医療安全

急性期医療、高度医療を担う病院であるからこそ、私たち飯塚病院は医療安全への取り組みに力を注いでいます。患者さん・ご家族・医療従事者の「だれもが辛い目にあわない」を合い言葉に、医療事故ゼロをめざして日々、東京大学や早稲田大学との共同研究なども行い医療安全に取り組んでいます。



ISO取得で医療の質の さらなる向上をめざす

飯塚病院では2001年にISO14001(環境マネジメントシステム)を、2008年にはISO9001(品質マネジメントシステム)を全診療科により認証取得しました。国際規格の取得が裏付ける医療の質のさらなる向上をめざして、改善活動を進めています。

チーム医療

医師 歯科医師 看護師 ケアマネージャー 助産師 診療放射線技師
保健師 ナース エイド ナースアシスタント 薬剤師 臨床検査技師 臨床心理士
理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 管理栄養士 視能訓練士 臨床工学技士
歯科衛生士 歯科技工士 介護福祉士 ソーシャルワーカー 診療情報管理士
救急救命士 ER-Aide 医療情報技師 ドクターセクレタリー
アドミニストレーター メディカルクラーク

この病院に、
職種の壁はありません。

スタッフ数

2,385名

医師302名、看護師1,070名、医療技術者515名、事務・その他498名
計2,385名のスタッフが在籍しています。中でも全体の約半数を看護師が
占め、病院全体を支えています。(2018年1月1日現在)

飯塚病院の文化とも言える「チーム医療」。

診療科や職種の垣根を超えて患者さんをサポートします。

飯塚病院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など、さまざまな職種のスタッフが患者さんの病状に応じてチームを組み、意見を交換しながら治療とサポートを進めています。また、当院のチーム医療は病院だけにとどまりません。患者さん自身もそのご家族もチームの一員です。様々な垣根を超えたチームワークで治療に取り組んでいます。



緩和ケアチーム

飯塚病院の緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種から構成されています。心と体の痛みを和らげ、安心して治療に専念していただくためのサポートを行っています。患者さんご自身も、そのご家族も、チームの一員です。

ICT (感染対策チーム)

飯塚病院のICTは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、施設担当スタッフなど多職種から構成されています。病院の中で感染症が発生していないかを継続的に監視・調査するなど、感染管理に努めています。



NST (栄養サポートチーム)

飯塚病院のNSTは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士など多職種から構成されています。チーム内で情報を共有し、患者さんの栄養状態を管理。一人ひとりに最適な方法で栄養管理の支援を行っています。

RST (呼吸サポートチーム)

全国的にも注目を集めている飯塚病院のRSTは、医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師など多職種から構成されています。週に一度病棟を巡回し、人工呼吸管理が適正に行われるよう支援しています。多職種がチームとなって活動することで大きな成果を上げることができるRSTは、当院のチーム医療の代表的な取り組みの一つです。

医療の質の
向上へのカギは、
教育が握っている。

グローバル医療とは、
飯塚にしながら
世界を思い描くこと。



看護師

飯塚病院における看護師の質の高さの背景には、教育制度の充実が挙げられます。当院には、病院全体で新人看護師を育てようという文化があり、スタッフがチーム一丸となって看護師教育に積極的に関わっています。当院独自の新人看護師研修「若葉ナースプログラム」などの新人研修に加え、キャリアごとの教育プログラムもあり、一人ひとりのキャリアアップを支援しています。

Educational Program

研修医



医療
技術者

飯塚病院は1989年に臨床研修指定病院となっており、300名以上の研修修了者を輩出してきました。当院では診療圏およそ42万人の医療を担う中核急性期病院の特性を最大限に活かした研修プログラムを導入しています。「屋根瓦方式」の教育体制、豊富な症例数と手術件数、全42科・部の専門診療科の充実など、医師の教育に理想的な体制が整っています。

飯塚病院の医療技術部門の質の高さは、地道な教育制度に支えられています。看護部同様、それぞれの部においてプリセプター制度によるマンツーマンの教育指導が行われています。また、1年を通して3回の合同勉強会を開催。情報共有のための改善事例発表や、当番部署の業務内容と取り組み事例の発表などを実施し、継続的にスタッフの質を高める取り組みを進めています。

海外の技術や情報の導入

飯塚病院のさまざまな取り組みは国際的にも注目度が高く、国際学会で表彰を受けたり、海外から多くの医師が見学や研修に訪れています。今後も国内外の病院や医療関係者のモデル病院であり続けられるよう、国内だけでは得られない技術や情報を積極的に海外から取り入れ、当院の医療の質を継続的に高めていきます。



英語教育の推進「English For All」

飯塚病院では「English For All」という職員の英語教育を推進する取り組みを行っています。2名のネイティブスピーカーが英語教育のために常駐。個別指導や職員のみ対象のクラスレッスンにより英語力向上を支援しています。

海外の医療機関との交流

海外の一流医療機関との提携・交流を通じて、グローバルな視野で医療レベルの向上に努めています。

主な交流機関

ピッツバーグ大学医療センター



米国有数の非営利医療機関。55,000人の従業員を抱え、20の大学病院、地域病院、専門病院、400の外來患者施設から構成されている。

メモリアルハーマンヘルスケアシステム



12の病院からなる医療グループ。100年以上に亘り、テキサス州ヒューストン市で地域に密着したヘルスケアサービスを提供し、全米の5大ヘルスケアシステムの1つにランクされている。

MDアンダーソン キャンサーセンター



テキサス州ヒューストン市にある、がん医療の先端を担う世界的に有名な病院で、「USニュース&ワールドレポート」の全米病院ランキングにおいて、過去11年間で9回、がん治療部門の1位に選ばれている。

エルカミノ病院



設立以来50年以上に亘り、患者のニーズに視点を当てた地域医療を続けているカリフォルニア州シリコンバレーの地域総合病院。Fogarty Institute for Innovationを敷地内に置き、医療機器の開発・応用でも輝かしい実績を上げている。

地域の未来は、
暮らす人々の
健康の先にある。

救急車搬送件数

7,241 件

2017年1月～12月



『地域医療支援病院』
としての
地域との繋がり



『救命救急センター』
『地域災害拠点病院』
としての救急医療と
災害医療



『地域がん診療連携
拠点病院』
としてのがん診療



『福岡県総合周産期
母子医療センター』
としての周産期医療

地域連携

地域全体が一つとなって、
地域の皆さまの医療を支えていく。



地域医療連携の 窓口を担う

飯塚病院は「地域医療支援病院」として地域の医療機関と連携をとり、患者さんの治療を行っています。その地域連携の窓口を担う部署が医療連携本部である「ふれあいセンター」です。ふれあいセンターには、診療連携・病床管理・医療福祉相談（ソーシャルワーカー）・介護保険相談などの前方・後方連携を担うユニットがまとまっており、地域完結型医療の実現に向けたネットワーク作りに貢献しています。



地域医療 サポーター制度

筑豊地域が安心して医療を受けられる地域であり続けるために、「自分の健康は自分で守る（病気の予防）」「医療機関と上手に付き合う（適正受診）」という2つの視点で自ら行動し、周囲の方々にもその知識を伝えてくださる方を『地域医療サポーター』として飯塚病院独自に認定する制度です。『地域医療サポーター』にはレギュラー／ゴールド／プラチナの3種類があり、2010年3月に制度を立ち上げて、2018年1月にはサポーター数が900名を超えました。地域医療のことを真剣に考えてくださる、幅広い年齢層の方々にご参加いただいています。



地域連携クリニカルパス サポーター制度

地域連携の更なる強化に向けて取り組んでいるのが「地域連携クリニカルパス」です。地域全体で患者さんに医療を提供する「地域完結型医療」の理念のもと、2018年1月時点で約70の医療機関との間で連携パスを活用しています。



地域連携による在宅医療

地域医療における重要なテーマの一つである在宅医療。飯塚病院において、その推進役を担うのが「地域包括ケア推進本部」です。地域での在宅医療の推進に向けた仕組みづくり、情報共有、関連機関とのネットワークづくりに取り組んでいます。

救急医療

筑豊地域を、日本で最も
救急医療の進んだ地域にする。



国内トップクラスの 受入体制を持つ 救命救急センター

飯塚病院の救命救急センターは、人口約42万人の筑豊地域唯一の救命救急センターです。一日およそ20件の救急車を受け入れ、外来の受診患者数は年間30,000人を超えています。これは、1,048床の病床と、2,000名を超える飯塚病院全職員のチーム医療の結晶です。地域のニーズに応えるため、軽症から重篤な患者さんまで幅広く診療を行い、24時間365日、筑豊地域の救急医療を支えています。

地域を見据えた 医師勤務体制

飯塚病院では、深夜帯でも医師は院内待機25名、院外待機15名程の診療体制を整えています。このうち救命救急センター内には深夜でも救急車担当、外科担当、内科担当、小児科担当の少なくとも4名が常駐。外科および内科診療は、院内外科系、内科系および研修医が交代で担当しています。また、医療スタッフの業務も多忙を極める状況の中、マンパワー不足を補い、業務を分担して、それぞれの専門性を向上させることで、業務のムリ・ムダ・ムラの最小化を図り、より働きやすい職場環境づくりを実現しようと、2010年8月よりER-Aideも活躍しています。



患者さんの 救命率向上に向けて

消防本部からの要請を受け、医師・看護師・救急救命士などをいち早く救急現場に派遣する車両「ドクターカー」。飯塚病院では、筑豊地域唯一の「ドクターカー」の運用を通して、救急患者さんの救命率の向上や後遺症の軽減などに貢献できるよう活動しています。



がん診療

がんはチームワークで
知る、防ぐ、治す、つきあう。



地域がん診療 連携拠点病院

飯塚病院は「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、患者さん個々に合わせて集学的治療を行うとともに、リハビリ・栄養管理・口腔ケア・メンタルケアなどの多面的なケアにチーム医療で取り組んでいます。また、飯塚病院には「患者会支援制度」があり、支援金支給や人的サポートにより乳がん患者や喉頭摘出患者、ストーマ患者などの患者会活動を支援しています。



PET-CT

飯塚病院では筑豊地域では初となる「PET・核医学センター」を新設しました。各診療科でがんの診断・治療に活用するだけでなく、がん予防のための検診にも役立つPET-CTの導入により、地域の皆様へ一層充実したがん診療を提供いたします。

がん集学治療 センター

無菌病床室7床を含めた36床の病棟部門と、15床の点滴専用リクライニングチェアおよび専用調剤室を備えた外来化学療法室で構成されています。一人の患者さんに対し多職種のスタッフが集まり情報共有をしながらチーム医療を行っています。

カンサーボード

がん診療においてより一層診療内容を充実させるために、飯塚病院では毎週「カンサーボード」を開催しています。毎回5～10名の患者さんの治療方針などを話し合い、共有しています。診療科の垣根を超えて医師やさまざまな職種のスタッフが集結し、チームとして取り組んでいます。

周産期医療

地域と病棟に、
明るい未来の産声を響かせたい。



筑豊地域唯一の 総合周産期母子 医療センター

飯塚病院は筑豊で唯一、総合周産期母子医療センターに指定され、筑豊地域約42万人の周産期医療の基幹病院として活動しています。現在、小児病棟には一般病床の他にNICU 9床、GCU 12床、産科病棟には一般病床の他にMFICU 6床を有しています。筑豊地域の分娩取り扱い施設の減少により、年間分娩数は一時増加し、現在はおよそ600例（帝王切開率約37%）でハイリスク症例の母体搬送、緊急手術に24時間体制で対応しています。また新生児部門では、小児科医が24時間体制で対応しています。

産科部門

飯塚病院の2016年の筑豊地域以外（福岡市・北九州市）への母体搬送は、例年と変わらず2%未満でした。これは福岡市から他地域への母体搬送が約30%というデータに比べると、人口の差はありますが非常に少ない状況です。また当院の2010年以降の母体搬送依頼受け入れは約99%で、今後も、新生児部門とのさらなる連携で地域の母子を支えていきます。



新生児部門

新生児部門ではNICU・GCUあわせて21床に専任医師・看護師を配置し、24時間対応で新生児の集中治療を行っております。当施設は、筑豊地区唯一の救急対応の総合小児施設でもあるため専門外来も充実、新生児期のみならず小児期を継続してセンター卒業児の成長発達のサポートを行っています。また、母子分離を極力軽減するために紹介産科への早期バックトランスファー（逆搬送：病状が安定してから紹介元の医療機関に転院して治療を継続する）を積極的にすすめています。



全42科・部

2,000人を超えるチーム医療体制。

肝臓内科

血液内科

心療内科

循環器内科

呼吸器内科

呼吸器腫瘍外科

産婦人科

外科

臨床腫瘍科

泌尿器科

形成外科

救急部

漢方診療科

麻酔科

内分泌・糖尿病内科

腎臓内科

リエゾン精神科

心不全ケア科

呼吸器腫瘍内科

小児科

神経内科

消化管・内視鏡外科

整形外科

眼科

歯科口腔外科

集中治療部

画像診療科

ペインクリニック科

消化器内科

総合診療科

膠原病・リウマチ内科

心臓血管外科

呼吸器外科

小児外科

脳神経外科

肝胆膵外科

皮膚科

耳鼻咽喉科

リハビリテーション科

緩和ケア科

放射線治療科

病理科

麻生飯塚病院



入院

飯塚病院の2017年の延べ入院患者数は326,028人、1日当たりの入院患者数は893人です。また、病床稼働率は92.6%※、平均在院日数は14.6日※です。地域の中核的な急性期病院として、入院が必要と判断された患者さんへ最良な医療を提供いたします。

(※精神科除く)

外来

飯塚病院の2017年における外来延べ患者数は457,736人、1日当たりの外来患者数は1,853人です。当院の外来は一部の診療科を除いた大半を北棟に集めています。関連する4～5科をまとめた一つのブロック形式を採用することで、関連性のある診療科を近くに集め、チーム医療の充実を図っています。

手術

飯塚病院の2017年における年間手術件数は5,970件、1ヶ月当たり手術件数は498件です。患者さんの安全を第一に考え、入室時のお名前確認はもちろん、チーム内での手術や患者さんの情報共有などリスク管理に努めています。北棟には「低侵襲手術センター」を設置し、手術による身体的な負担をできるだけ小さくすることをめざした低侵襲手術や、関節を人工関節に置き換える手術などを主に行っています。

予防

飯塚病院の「予防医学センター クローバー」では、筑豊初のがんPET検診をはじめとした人間ドックによる、生活習慣病やがんの早期発見を目的とした検査を行っています。さらには病気を予防することに重点を置いた日常生活での健康管理についてアドバイスをを行っています。質の高いアメニティと落ち着いた雰囲気の中で、迅速かつ高度の健診サービスを提供しています。

看護部門



飯塚病院の看護部は、看護師、介護福祉士、看護助手、メッセンジャーのおよそ1,000人のスタッフで構成されています。「豊かな感性を持ち、人を理解し尊敬し、暖かい心で接する」を看護部理念に掲げ、一人ひとりがレベルの高いスキルを維持し、常に目標に向かって明るく看護に取り組んでいます。その姿勢は当院の医師をはじめ、他の病院からも高い評価を得ることができています。Patient-Firstの精神のもと、看護師が何をやったかではなく、患者さんにどんな価値を提供できたかという視点に立った看護を進めています。まごころ医療を飯塚病院から日本へ、さらに世界へと発信することのできる看護の実践の提供をめざしています。



高い専門性を持つ看護師

飯塚病院では、より高度で充実した看護を提供するために看護師の専門資格の取得を推進しています。現在、特定の分野に関してより詳しい知識と技術を持ち、それに基づいたケアを提供する、看護のスペシャリスト達が専門性を活かして活躍しています。

当院に在籍する (2018年1月現在)

主な専門資格の取得看護師数 19名
 ー慢性疾患看護専門看護師 1名
 ーがん看護専門看護師 1名
 ー集中ケア認定看護師 2名
 ー感染管理認定看護師 2名
 ー皮膚・排泄ケア認定看護師 2名
 ー糖尿病看護認定看護師 2名
 ー手術看護認定看護師 1名
 ー救急看護認定看護師 1名
 ー乳がん看護認定看護師 1名
 ー摂食・嚥下障害看護認定看護師 1名
 ー緩和ケア認定看護師 2名
 ー小児救急看護認定看護師 1名
 ー慢性呼吸器疾患看護認定看護師 1名
 ーWOCN 1名
 など

総合医療技術部門



飯塚病院の総合医療技術部門は、薬剤部、臨床工学部、リハビリテーション部、栄養部、中央放射線部、中央検査部、医療福祉室の500名を超える医療技術者で構成されています。医療技術の進歩に合わせて医療技術者を適正に配置し、医療サービスの向上に取り組んでいます。それぞれの部門において最新の医療技術や技能を習得し、医療スタッフに適切な情報や技術を伝えるチーム体制で、患者さんに質の高い医療を提供できる組織体系をめざしています。

経営管理部門



現在、全国の多くの病院が赤字と言われている中、飯塚病院は質の高い医療サービスの提供に努め、20年以上黒字経営を続けています。その理由の1つが、企業経営のノウハウを取り入れた経営手法です。飯塚病院は株式会社麻生の医療事業の中核であり、事業計画に基づく目標管理制度を実行しています。企業ならではの事業改善に関するノウハウや人材育成の手法を巧みに取り入れた経営を行っています。当院の安定した経営実績は、国内外の医療機関からも注目されています。

ih 飯塚病院

i n n o v a t e a n d e v o l v e

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号
TEL 0948-22-3800(代表)
<http://aih-net.com/>

飯塚病院について

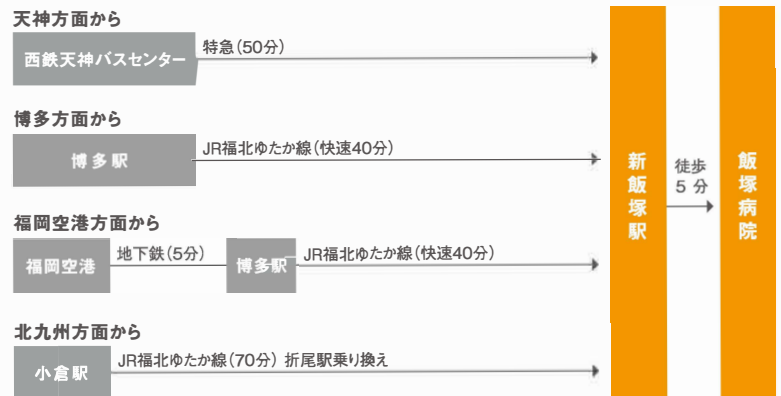
病院概況

名称 飯塚病院
開設 1918(大正7)年 8月
開設者 株式会社麻生
代表取締役社長 麻生 巖
所在地 福岡県飯塚市芳雄町3番83号
TEL(0948)22-3800(代表)
病院区分 地域医療支援病院
院長 本村 健太
面積 敷地面積:46,272㎡
延床面積:71,428㎡
定床数 1,006床
(一般963床・精神43床)
従業員数

医師:381名
看護師:1,095名
医療技術者:612名
事務・その他:423名
合計:2,511名
(2025年4月1日現在)

病棟数 東 棟:10病棟
中央 棟:6病棟
南 棟:5病棟
西 棟:3病棟
ハイケア 棟:2病棟
北 棟:7病棟
合計:33病棟
(2025年4月1日現在)

アクセス方法



初診・再診…月～金曜日 外来受付時間…8:00～11:30(一部診療科は除く)
休診日…土・日・祝日、年末年始(12月30日～1月3日)



飯塚病院の歴史

この街で暮らす 皆さまへの想いから、 飯塚病院は生まれました。

明治末年の筑豊地域には、公的な医療機関がひとつもなく、
専門的な診断治療を必要とする患者は、
遠方の大学病院に通う以外ありませんでした。
当時は保健衛生思想も普及していないため、
伝染病に対する防疫体制が不十分で、感染症が流行するたびに
多数の死者が発生していました。また、近代産業の勃興に伴い、
結核患者の増加も1つの社会問題となりつつありました。
このような時代背景の中、現社長の高祖父である麻生太吉は、
筑豊地域に優れた病院を建設し、
地域医療と住民の福祉に貢献したいという熱望をもっていました。
ちょうどその頃、嘉穂郡会は郡立病院の建築を議決しましたが、
多額の建設資金や医療技術者の確保など多くの難問を抱えていました。
そこで太吉は、かねての熱望を実現するため、
郡に代わって自分が病院を建てる事を郡長及び郡議会に申し出ました。
もちろんこの申し出は郡議会に満場一致で受け入れられました。
1908(明治41)年9月のことでした。1910(明治43)年早春、
病院は竣工しましたが、思いもかけず開設反対運動が発生しました。
その後、立派に完成した病院の門扉も固く閉ざされたまま約10年が経過し、
1918(大正7)年5月、個人経営であった石炭事業が株式会社麻生商店
として新発足したのを機に、同年8月9日より診療を開始しました。
1920(大正9)年9月、飯塚病院と名前を変え、ついに一般市民にも開放されました。
以後、当院は「郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする」という
開設の精神に基づき、一貫して地域医療の向上に努め、
飯塚市を中心とする筑豊一帯の市民の病院として発展してきました。



開設当初の飯塚病院

1918



開設者 麻生太吉(1857-1933)

飯塚病院年表

1909(明治42)年3月	病院建設着工 福岡医科大学(現九州大学医学部) 三宅 速教授の指導による
1910(明治43)年4月	病院竣工、病床数120床
1918(大正7)年8月	診療開始(麻生炭鉱病院)
1920(大正9)年8月	飯塚病院に改称
1955(昭和30)年3月	本館竣工
1962(昭和37)年12月	看護婦寄宿舍竣工
1964(昭和39)年6月	南棟竣工
1975(昭和50)年4月	中央棟竣工
1982(昭和57)年3月	東棟竣工
1988(昭和63)年7月	西棟竣工
1989(平成元)年4月	臨床研修病院に指定
1990(平成2)年3月	研修医宿舎及び健診棟竣工
1992(平成4)年7月	TQM活動開始
1996(平成8)年12月	災害拠点病院(地域災害医療センター)に指定
1997(平成9)年1月	エネルギーセンター竣工
2000(平成12)年8月	福岡県地域周産期母子医療センターに指定
2001(平成13)年3月	ISO14001審査登録
2002(平成14)年8月	地域がん診療拠点病院に指定
2004(平成16)年1月	ハイケア棟竣工
2004(平成16)年5月	開放型病院に指定
2004(平成16)年7月	DPCの試行的導入開始
2005(平成17)年4月	地域医療支援病院 承認取得
2006(平成18)年11月	地域連携ささあらい小児診療開始
2006(平成18)年12月	福岡県介護予防防支援助センターに指定
2008(平成20)年1月	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)に指定
2008(平成20)年7月	ISO9001認証取得
2009(平成21)年8月	ISO15189認定取得
2009(平成21)年10月	ビッツバーク大学メディカルセンターとの 研修教育契約締結調印式
2010(平成22)年3月	地域医療サポーター養成講座開始
2011(平成23)年12月	九州工業大学・飯塚市と医工学連携の 協力推進に関する協定締結
2012(平成24)年3月	福岡県防災賞受賞
2012(平成24)年6月	メモリアル・ハーマン病院との交流提携調印式
2012(平成24)年8月	ドクターカー運用開始
2013(平成25)年1月	北棟竣工
2013(平成25)年3月	エルカミノ病院との交流提携調印式
2013(平成25)年6月	福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業に 係る拠点病院に指定
2013(平成25)年12月	福岡県総合周産期母子医療センターに指定
2014(平成26)年4月	ナショナル ユニバーシティ ホスピタル (シンガポール)との交流提携調印式
2015(平成27)年8月	人間ドック健診施設機能評価に認定
2016(平成28)年10月	「飯塚メディコラボ」プログラム 開始